

## 第7章 復旧・復興期間後を見据えた中長期的な取組

### 「丸森型サステイナブル・タウン」検討プロジェクト

町政史上に例のない大災害から立ち上がり、次代につなぐ新たなまちを創造するためには、これまで述べた復旧・復興への取組に加え、高齢化や人口減少への対応など本町が取り組んできた重要課題について継続的に検討を行う必要があります。その際には、財政負担を低減するとともに、公共サービスの質を維持しながら、将来にわたり安心して生活できる町のあり方をしっかりと描いた中で、新たな取組を進めていくことが重要です。

今後、避けることのできない人口減少の流れを踏まえ、各地区の歴史や文化、さらには住民の生活の質（QOL）（※）に配慮し、その実態や意向を十分に反映させながら、単に物理的な集約ではなく、町全体としての「持続可能性」を見据えた各地区のあり方を整理し、住民と話し合いを重ねた上で、相互連携による集約型のまちづくり（「丸森型サステイナブル・タウン」）の取組を進めてまいります。

具体的には、丸森及び館矢間地区に医療、福祉、教育など、他地区にて維持が困難になると思われる各種サービスを補完・提供できる体制を構築するとともに、各地区内、各地区間及び隣接する他自治体に所在する交通拠点への移動の確保には、有償ボランティア運行等について、住民との協働により、早期に実現できるよう検討を進めてまいります。

※「生活の質（QOL／クオリティ・オブ・ライフ）」

「人生の質」、「生活の質」などと訳されることが多く、生きる上での満足度をあらわす指標のひとつ。

